

団体の概要 (NGO/NPO用)

団体名 エコ・リーグ (全国青年環境連盟)

所在地	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 2-19 銀鈴会館 507 TEL: 03-5225-7206 FAX: 03-5225-7206 E-mail: eleague@mx.mesh.ne.jp		
ホームページ	http://www2.biglobe.ne.jp/~eleague/		
設立年月	1994年8月 * 認証年月日(法人団体のみ) 年 月 日		
代表者	北橋みどり	担当者	小林功英
組織	スタッフ 50名(内専従 0名) 個人会員 150名 法人会員 0名 その他会員(賛助会員等) 100名		
設立の経緯	1992年に開催されたりオサミットを受け、1993年に日本で開催された国際青年環境開発会議(主催:A SEED JAPAN)の行動指針として環境問題を憂慮する青年層のネットワーク作りが必要、という指針が採択されたのが発端となり、1994年8月に設立された。		
団体の目的	地球規模から地域までの環境問題の解決を目指す青年、もしくはこれから活動しようと思っている青年が集まり、情報共有や活動意欲の相互刺激を行う「場」の提供を通じて、地球環境問題の解決を目指すことを主たる目的とする。そのため、団体としては、特別の主義・主張を持たず、青年が中心となって運営している環境NGOや各大学にある環境サークルのネットワークとして発展しており、現在では150団体・2000名をネットワークしている。		
団体の活動プロフィール	【Youth Ecology Gathering(ギャザリング) /1994年~】当団体の主力事業である、毎年全国各地で4~6回開催される合宿形式のイベント。年間1,000人以上の人が参加している。エコ学園祭ネットワーク、学生ISOネットワークなどさまざまな団体が、このイベントを通して生まれた。 【日韓環境ギャザリング /1999年~】韓国の環境学生NGOであるGreenNetworkと提携。日本と韓国で交互にギャザリングを開催している。 【えこみゆにけーしょん /1999年~】大学で環境を学びたい人のための進路相談・交流会。 【環境就職進路相談会 /1995年~】環境分野に就職希望の学生向けの、カウンセリング形式の就職相談会。毎年、東西で1回ずつ開催され、社会人カウンセラー40名程が参加する。 【情報発信(web、機関紙、団体名鑑)】・青年と団体のための環境ポータルサイト、「ECO2000」の運営。「ECOLEAGUER」の発行。青年環境団体名鑑の作成 【出版】おまつりエコロジーのすすめ等 【マネジメントサポート(マネジメントサポート部) /2002年~】運営に関する様々な知識を蓄積し最大発揮することを目的に、昨年新設。環境サークルのサポートも行う。		

活動事業費(平成15年度)15,680千円

政策のテーマ

お祭における環境負荷削減のパートナーシップ

政策の分野
 持続可能な循環型社会の構築
 環境パートナーシップ
 政策の手段
 制度整備及び改正
 組織・活動
 人材育成・交流

団体名：エコ・リーグ（全国青年環境連盟）

担当者名：小林功英

政策の目的

特に、国及び地方自治体で開催する「おまつり」の時に発生する廃棄物（祭系廃棄物：食品廃棄物や容器包装物など）をする時には、この適切処理を、3Rの原則に基づき行うことを義務付け、また、民間が主催で開催する「おまつり」については、努力義務とする。

背景および現状の問題点

「おまつり」は、昔よりコミュニティの活性化や市民の交流の場として重要な意味を持ち、日本全国無数のまつりが存在し、今後もその重要性は変わらずに開催されていくと思われる。一方で、まつりだからとはいえ、そこから排出される廃棄物（祭系廃棄物：食品廃棄物、容器包装物など）の量は年間 トン以上にもなり、無視できない状況になってきている。

政策の概要

当会では、10年前より、特に大学の学園祭のごみを減らすべく活動を行い、合宿などを通して全国の大学学園祭に普及させてきた。また数年前より、実施報告やノウハウを記した冊子を作成しており、取り組み始める大学や組織の教科書となっている。

現在では、大学の取り組みから、その地域の自治体に活動が移転するケースもあり、事実上全国に広がっているといえる。つまり、この取り組みはすでにかかなりの地域に広がりつつあり、法律により義務化しても対応は可能である。

義務化後には、学園祭での環境対策のノウハウを有する大学の環境サークル等が、自治体のおまつりに参画し、進んで取り組みを行うことになる。ここで、大学・大学生と自治体・地域のパートナーシップが生まれる。このパートナーシップのメリットを以下4つにまとめる。

・環境問題の普及啓発

例えば、洗い皿を導入し、実際に参加者に洗ってもらうことで、環境問題を考える機会を作り出す。

・おまつりにおける環境負荷の低減

当然であるが、おまつりの環境負荷、特に祭系廃棄物の削減につながる。

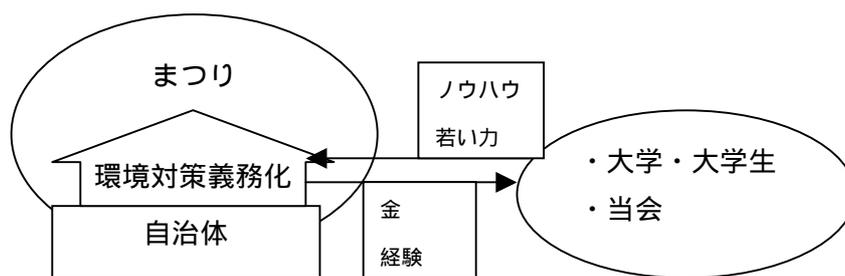
・おまつりへの若者の参加の促進

若い大学生が参画することで、高齢者で運営しがちのおまつり自体も活性化する。

・インターンシップ効果

大学生が自治体の職員という社会人と協同することで、働くことや社会のルールを知っていくことになり、インターンシップと同じ効果が生まれ、就業感の醸成につながる。環境マインドのある大学生が高い意欲を持って就職する仕組みとなる。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）



当会の業務：

自治体 A からの依頼を受け、本部から一人と、近い大学の大学生スタッフを派遣。

リサーチを行い、自治体 A のまつりに適した環境活動のマッチングと目標作成、当日までの活動プランのコンサルティングなど行う。

地域住民のコーディネートを行い、大学生を巻き込んでいく。

当日は、目標に達成するようにマネジメントを行う。

政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）
全ての自治体、協賛企業、大学・大学生、NPO/NPO

政策の実施により期待される効果
おまつりにおける環境負荷の低減。
環境教育効果。

その他・特記事項